

取組概要

昭和中学校では、「ふるさとを愛し、体得した基礎学力・創造力で、夢や目標の実現に向け粘り抜く「逞しい生徒」の育成」を目指し、昭和中「わかる授業」のポイントを取り入れた授業改善を推進するとともに、「ふるさと」を共通テーマとし、体験を通して探究・表現する総合的な学習の時間の充実を図っている。

工夫・ポイント

【学校マネジメントの工夫】

- ◆短期の検証・改善を繰り返し、達成状況や「生徒の今の課題」を明確にして、それを踏まえた重点目標・達成資料を具体的に設定している。
- ◆学力向上委員会を月1回開催し、授業づくりや家庭学習の取組、定期テストの内容等の情報共有を行い、取組の進捗管理を行っている。

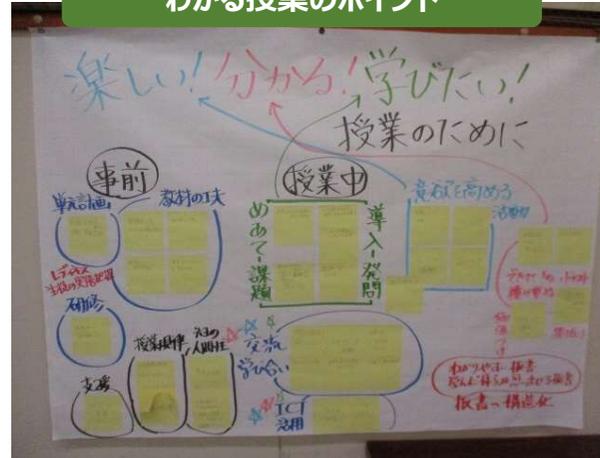
特徴的な活動

- ◆若手教員が「わかる授業のポイント」を提案・全教職員に共有し、日常の実践に取り組むとともに、互見授業により取組状況を確認し合っている。
- ◆弥生地区学校運営協議会・協育ネットワーク会議と連携し、リバーフェスタ等の体験活動の充実を図り、ふるさと弥生についての探究的な学習を推進している。

関係者の声

- ◆振り返りについて、昭和中として特に大切にしたい視点を焦点化して日常的に取り組むとともに、生徒個人の目標に対する振り返りや人間関係づくりプログラムの振り返りを定期的に行い、蓄積して生徒の変容を見取りフィードバックし、自己管理能力の育成につなげていく取組を進めることが考えられる。

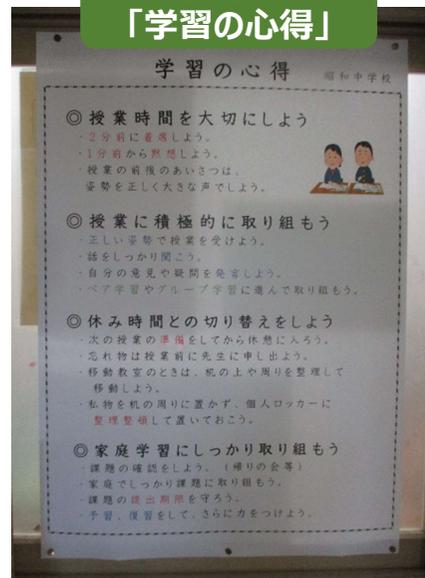
わかる授業のポイント



話し合い活動の工夫



全ての教室に「学習の心得」



考えを共有するための話し合いの方法

話し合いの方法	考えを共有するための話し合いの方法
ブレインストーミング	たくさんのアイデアを出し合うための方法。5〜10名で行う。誰もたくさん出すのが目的なので、面白いことを自由に述べ、互いの案を否定しない。 【議題の例】 クラス目標の達成を促す
バスセッション	学級全体を、4〜6名程度の小グループに分けて話し合うことで、意見を出しやすくなる。 【議題の例】 習熟度別学習の取り組み
パネルディスカッション	立場の異なるメンバーが議論し、そこにフロア（聴衆）が加わって考えを広げる。 【議題の例】 メディアとして最も信頼しているのは何か
グループディスカッション	4〜6名に分かれて議題について話し合い、結果を全員に報告する。深い考えを促すため学習を促す。 【議題の例】 学級の年間目標
シンポジウム	あるテーマについて、複数の専門家が見学客へ、フロアは質疑応答を通して、テーマに関する考えを広げる。 【議題の例】 中学生の近未来の生活 地域の活性化をより活性化するための方法
ポスターセッション	研究結果などについて発表者が、発表内容を図やグラフなどを用いてポスターとしてまとめ、それを良いながら説明と質疑応答をする。 【議題の例】 〇〇地区の環境汚染を減らすための方法
ワールドカフェ	① 少人数で話し合います。 ② 10分間、話し合います。他のグループと意見交換をする。その際、一人は、その場に残り、他の人は他のグループの場面に移動します。 ③ 20分間、話し合います。再び別のグループで交流する。

月ごとの生徒目標

